

日本ユニシス株式会社

2013年3月期 第3四半期決算説明会（2013年2月1日開催）

主な質疑応答

（ご理解いただきやすいよう表現を変更している箇所があります。）

Q： 第3四半期(10-12月)は6億円の営業黒字と、前年同期の営業赤字から大幅改善した要因を教えてください。

A： 第3四半期は、不採算の減少などによりサービスの収益性が改善したことや大型のソフトウェア案件が計上できたことに加え、コスト削減を進めた結果、営業利益は前年同期比28億円増加し、6億円の黒字となった。

Q： 第3四半期(10-12月)で不採算案件への損失引当は発生したのか。また、第4四半期(1-3月)での損失引当をどの程度見込んでいるのか教えてください。

A： 第3四半期において、前期からの大型不採算案件について追加引当を行なった。現時点における今後のコスト超過見込み分を全て引当てたため、現状では第4四半期での追加引当は発生しないものと考えている。

Q： 第3四半期(10-12月)の受注高は、前年同期での大型案件計上の影響もあり5.8%の減少であったが、第4四半期(1-3月)についても受注の水準は前年同期比で低くなると考えてよいか確認したい。

A： 第4四半期についても、前年同期に長期契約の大型案件が受注計上されたこともあり、前年同期と比較するとやや低い水準になると予想している。

Q： 通期の営業利益見通しを据え置いているため、第4四半期(1-3月)での営業利益は前年同期比で33億円減少する見通しとなっているが、第4四半期での大幅な営業減益となる要因を教えてください。

A： 前年第4四半期は、採算性の良いインフラ更改案件があったことに加え、業績連動によるコストの大幅圧縮を実施していたこともあり、第4四半期ではこれらの反動を見込んでいる。

（注）本資料で記述しております業績見通し等の予測数値は、現時点での入手可能な情報による判断および仮定に基づき算定しており、リスクや不確定要素の変動および経済情勢等の変化により、実際の業績は、本資料における見通しと大きく異なる可能性があることをご承知おきください。また、本資料は投資判断のご参考となる情報の提供を目的としたもので、投資勧誘を目的として作成したものではありません。